

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度発生予察技術情報第2号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成18年度技術情報第2号

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ）の誘殺数が4月第6半旬に一部の地域で急増した。今後，気温の上昇にともない，果樹園へ飛来し，吸汁加害する恐れがあるので，注意が必要である。

1 対象作物 ウメ，モモ，ビワ，ハウスミカン等

2 情報の根拠

- （1）ツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数が急増し，垂水市では4月第6半旬に2,001頭（平年53頭），出水市では5月1日の調査で318頭（平年2頭）と多かった（表1）。
- （2）桜島のビワ，出水市，いちき串木野市の露地栽培のカンキツの花にも飛来が認められた。
- （3）秋に多発した場合は翌年春の誘殺数は多い傾向にあり，昨年の秋は山林での発生量が多かったことから，春期に発生が多くなる可能性が高い。
- （4）チャバネアオカメムシの越冬量は $0.18\text{頭}/\text{m}^2$ （前年 $0.02\text{頭}/\text{m}^2$ ）で，調査を開始した平成4年以降では3番目に多かった（表2）。

3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差，ほ場間差があるので，園内の発生状況の把握に努め，発生に応じて防除を行う。収穫期の近い樹種では特に注意する。
- （2）飛来を認めた場合，一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は，ハダニ類やカイガラムシ類の発生を助長するので連用を避け，ネオニコチノイド系薬剤と交互に使用する。
- （3）飛来数が多い場合は，忌避灯（黄色蛍光灯）のある園地では夜間に点灯する。果実への袋かけ，ネット被覆など耕種的防除により被害の軽減を図る。
- （4）カメムシ類の移動は最低気温が 14 以下では少ないが，夜温が高くなると活動が活発になる。
- （5）露地栽培のカンキツ類では新梢や花蕾が加害され落花することがあるが，集中的な飛来がみられる場合には被害に応じて防除する。

< 参考資料 >

第1表 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況(4~5月)

ツヤアオカメムシ

	半旬	垂水		加世田		市来		東郷		出水	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月	1	1	5	0	0	0	1	0	0	3	0
	2	6	12	0	2	2	3	0	0	10	2
	3	87	8	2	2	0	23	0	0	0	4
	4	8	83	0	6	4	84	0	1	5	54
	5	9	189	0	4	2	28	0	3	2	16
	6	2,001	53	2	9	12	87	5	2	4	41
5月	1		50	18	12	12	40		4	318	24

チャバネアオカメムシ

	半旬	垂水		加世田		市来		東郷		出水	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0
	3	0	2	0	0	0	15	0	0	0	0
	4	0	7	0	1	0	1	0	2	3	3
	5	0	20	0	1	0	2	0	3	0	2
	6	5	18	0	1	0	20	28	4	0	10
5月	1		23	5	3	0	4		118	19	6

5月第1半旬の本年は5月1日のみのデータ

表2 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
越冬量 (頭/m ²)	1.35	0	0.03	0	1.02	0	0.15	0.02	0	0	0.12	0.07	0.01	0.02	0.18
調査地点数	12	15	16	15	18	31	34	53	52	37	38	38	49	36	42
うち成虫確認地点数	8	0	1	0	13	0	8	3	0	0	8	6	1	2	12